戦争の遺構から反戦を学ぶ

高槻地下倉庫、タチソ

11月20日、同企連の現地研修会がおこなわれ、18社19人、県連から宮本修作・書記長、事務局2人が参加した。

トンネルが崩壊しはじめ
ヘルメットをかぶり見学した

今回の研修場所は、大阪府高槻市の高槻地下倉庫（略称：タチソ）で、アジア・太平洋戦争末期に日本各地に計画された地下倉庫・工場の一つだ。1944年夏、サイパン陥落により「本土決戦」が現実の問題として意識されはじめ、近畿・中国・四国・東海地方の防衛をつかさどる中部軍の地下指令所の場所として選ばれたのが、高槻市成合地区であった。現地までのバス移動中、30年前に制作されたVTRを学習し、磐手公民館で宮本書記長からのあいさつと高槻「タチソ」戦跡保存の会・橋本徹さんより、戦中・戦後どの企業も安い賃金で朝鮮人を強制労働させていたことなどのあいさつがあった。

成合の地主は「お国のため」という言葉に逆らえず安い賃貸料で土地を強制収用されトンネル工事が開始された。工事には、陸軍部隊や学徒動員された男女学生、各村々から義勇隊として集められた農民、地元の小学生もたずさわり、ダイナマイトによる掘削など、一番、苛酷で危険な作業は、その数3500人ともいわれる朝鮮人で、そのなかには強制連行された約600人もの朝鮮人がいたといわれている。

1945年、川崎航空工場が空襲を受け、タチソも司令部から戦闘機「飛燕」のエンジン部分を製造する地下工場へと目的が変更された。

しかし、8月15日に敗戦すると憲兵と兵隊は天皇の放送を聴いた直後に姿を消し、強制労働させられた朝鮮人が日本に残った。70年たったトンネルは崩壊がすすみ、内部への案内が困難な現状で、戦争遺構を後世に伝えるという大きな意義をもった研修となった。

平井で人権のまつりひらく

11月28、29日の2日間「平井地区人権のまつり」が平井文化会館を主会場にひらかれ、多くの住民らが参加した。

開催のセレモニーで主催者を代表して高尾清茂・実行委員長は「文化会館ができて40年、人権の砦として住民の積極的な参加で多くの成果を上げてきた」とし、さらに未来に向けて活動を強めることを誓った。

また、来賓を代表して尾花正啓・和歌山市長は「人権と歴史、生活を基調とした街づくり運動の拠点として、さらに大きな役割を果たすことを期待する」とあいさつした。

人権のまつりは、記念講演会、人権パネル展をはじめさまざまな展示や発表、模擬店がひらかれた。（くわしくは、HPをご覧ください）

あいさつする
高尾実行委員長

主張

年もあらたに 完全解放にむけ まい進しよう！

2016年の年が明けました。昨年は「同対審」答申50年、『部落地名総鑑』発覚40年と私たちの部落解放運動にとって極めて重要で意義のある年でありました。安倍政権下での人権の法制度の早期制定は極めて困難な状況にあるものの、和歌山県をはじめ全市町村に「同対審」答申の精神を再びみつめなおす要請行動や行政闘争を展開し、11月には和歌山県の行政・議会関係者をはじめ県内各界各層の参加者による「人権フォーラム東京集会」を成功させてきました。また、5月には一昨年11月に逝去された中澤敏浩・前執行委員長の追悼集会の開催、そして選挙闘争では統一地方選をはじめ、すべての組織内候補必勝にむけたとりくみを推しすすめ、全員の当選を勝ち取ってきました。本当に同盟員の皆さんご苦労様でした。

1

さて、本年は第2次世界大戦敗戦後『国際連合』に加盟し、国際社会に復帰して60年、そして解放の父、松本治一郎先生が死去されて50年と私たち部落解放運動にとって極めて意義深い年となっています。松本治一郎は「戦争は最大の人権侵害」であるとし『不可侵不可被侵』という言葉によって、世界の恒久平和を提言し、人権を守っていくことが平和を実現することであるとして、部落解放運動の先頭に立ってこられました。しかしながら、安倍政権は特定秘密保護法の強行採決にはじまり、集団的自衛権行使容認の閣議決定、それにもとづく「戦争法制」の強行採決でまさに『戦争のできる国』づくりに向け憲法を改悪しようとしています。

2

また、狭山再審の闘いでは、これまで25回におよぶ三者協議のなかで200点におよぶ新証拠が開示されてきました。そのなかには石川さんの無実を示す証拠も明らかにされ、さらに検察庁が隠しもっている全証拠の開示と事実調べを要求していかなければなりません。狭山の闘いは、事件当初から一貫して反差別共同闘争として闘い抜かれ、労働者、学生、市民、宗教関係者の大結集により大きな盛り上がりをみせています。石川さんの半世紀にもわたる闘いと連体し、今年こそ再審実現にむけ闘いを押し進めていかなければなりません。

平和と人権の集い in岩橋

12月13日、西和佐小学校体育館において、エンパワー西和佐・岩橋子ども会主催の「2015平和と人権の集い」～伝えたいこの想い～が開催されました。当日天候にも恵まれ子どもから高齢者まで2百人近い参加者がありました。

展示コーナーでは、狭山事件や県下で発生した差別事件などの人権パネルや識字教室、夜間学校の作品、また、西和佐保育所、西和佐幼稚園、西和佐小学校の子どもたちの作品なども展示されていました。

心をひとつにして合唱する子どもたち

舞台発表では、人権コンサートや子ども会の青年シニアのヒロシマ平和学習の報告、小学生部の群読・合唱などが行なわれました。

参加した人のなかには、『県下で発生した差別事件』をみて差別は解消されたという考えはやはり違うと思いました。市は『同対審』答申の完全実施を求めてこれからも姿勢を貫いていってほしいと思います。また、国も再考してほしい」との感想もあり、一日を通して平和と部落差別をはじめ、人権問題について考える集いとなりました。

（投稿：北川善文）

文化の窓

「透明なゆりかご」

～産婦人科医院看護師見習い日記～

著者：沖田×華　講談社
INBN978-4-06-340957-4

発達障害をもつ著者が、当時、産婦人科でアルバイトをしていた97年当時のようすを描いた一冊。生まれる命、消えゆく命を著者の体験にもとづき記された真実の産婦人科物語。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301